

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

## The representation of loanwords in 90 contemporary magazines

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-03-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮島, 達夫, 高木, 翠, MIYAZIMA, Tatsuo, TAKAGI, Midori メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00001085">https://doi.org/10.15084/00001085</a>

## 雑誌九十種資料の外来語表記

宮 島 達 夫

高 木 翠

われわれは、さきに、「雑誌九十種資料の漢語表記」という報告をまとめ、国立国語研究所報告62『研究報告集 4』(1978)に発表した。そのつづきとして、外来語表記についての調査結果を報告する。

分析の対象は、1956年の雑誌九十種からぬぎだした、のべ約44万語(β単位)の表記である。漢語表記の報告でのべたように、資料のふるさにもかかわらず、調査の規模や方法の面からいっても、自由な表記の実態をしめす面からいっても、この資料は、まだ、その価値をうしなっていないとおもわれる。

調査の方針のうえで、漢語のばあいとちがうのは、おもにつぎの2つの点である。

(1) 人名・地名も対象にしたこと。「太郎」が漢語で「花子」が和語だというちがいは、あまり意味がないが、「ジョン」「ニューヨーク」における外来語性は、かなりつよい。

(2) 漢語のばあいは、全体としてどのくらいかながきされているか、といったこともしらべたが、今回は、表記のゆれにおける、いくつかの問題点にしばったこと。

なお、「バターいため」のような混種語における外来語部分も対象としたことは、漢語のばあいと同様である。「訓練係」のように、ルビとして外来語がかかっているものも、文脈として、こうよむのが自然であるばあいは、外来語が主体とみとめて、対象にいれた。

この報告の中心は、外来語表記のゆれである。ただし、部分的に、発音のゆれとみられるものにもふれた。「表記のゆれ」は、厳密に言えば、一定の発音を前提とする。「タイプライター～タイプライタア」は、発音がおなじ

だとおもわれるので、表記のゆれである。「タイプライター～タイプライタ」は、発音のゆれが表記に反映したもので、これ自体は表記のゆれではない。しかし、じっさいには、この区別がむずかしいばあいがある。たとえば、「ピアノ～ピヤノ」は、発音がちがうはずだが、その差は微妙である。「ア」または「ヤ」がかいてあるからといって、そのとおりに発音しているとみるのは、あぶない。つまり、これは発音の差のはずだが、じつは表記の差にすぎないかもしれないのである。（「タイプライタ」とかいている人も、「～ター」とのぼして発音している可能性がないことはない。）それで、発音のゆれとおもわれるものも、純粹に表記上のゆれと区別せずに、とりあげることにした。

外来語のゆれを考えるうえで参考になるのは、「外来語の表記について」（国語審議会、1952年12月）である。ここには、日本語としてのこれこれの音はこうかく、というのと、原語のこれこれの音はこうかくという発音の基準をからめたものとあわせて、19条の「外来語表記の原則」がのべられている。以下これを簡略化してしめす。○印は、この報告でとりあげた項目。

① かたかなで書く。

2 慣用に従う。

ケーキ リュックサック

③ はねる音は「ン」で。

テンポ トランク

4 つまる音は「ッ」で。

コップ カット

5 原音のつづりに引かれて「ン」「ツ」をいれない。

コミュニケ キス

6 よう音は「ャ」「ュ」「ョ」で。

ジャズ チョーク

⑦ 長音は「ー」で。

ボール メーデー

- ⑧ イ列エ列の次の「ア」は「ヤ」としない。  
ピアノ ヘアピン
- 9 原音の「トゥ」「ドゥ」は「ト」「ド」に。  
ゼントルマン ドラマ
- ⑩ 原音の「ヴァ」……「ファ」……は「バ」……「ハ」……に。  
プラットホーム バイオリン
- ⑪ 原音の「ティ」「ディ」は「チ」「ジ」に。  
チーム ラジオ
- 12 原音の「シェ」「ジェ」は「セ」「ゼ」に。  
セパード ゼリー
- 13 原音の「ウィ」「ウェ」「ウォ」は「ウエ」「ウオ」に。  
ウイスキー ウェーブ
- 14 原音の「クァ」「クィ」「クォ」は「カ」「クイ」「クエ」「コ」に。  
クイズ イコール
- 15 Xは「キサ」……でなく「クサ」……に。  
タクシー ボクシング
- ⑫ -er, -or, -ar は「ー」で。  
ライター エレベーター
- 17 -um は「ウム」  
アルミニウム ラジウム
- 18 原音の「チュ」「デュ」は「チュ」「ジュ」に。  
チューブ ジュース
- 19 原音の「フュ」「ヴュ」は「ヒュ」「ビュ」に。  
ヒューズ レビュー

この報告でも、この順序にしたがって調査項目をとりあげ、各項目の見出しのつぎに(原則3)のような形で「外来語表記の原則」の第何項にあたるかをしめした。ただし、資料の分量のおおい項目を優先的にとりあげたの

で、1～19のすべての条項にわたるわけではない。

各項目の記述のあとに、度数5以上の外来語の表記をしめした。度数1までの全例をあげると、表が大きくなりすぎるためである。

以下に、たびたび「のべ」「ことなり」という用語がでてくるが、これについて説明しておきたい。いま、

ムード	2	ムウド	1
ムームー	2		

という結果で、この「ムード」と「ムウド」は、おなじ単語のことになった表記だとする。この資料の長音表記についてまとめると、

	のべ	ことなり
棒びき	6	3
母音	1	1

となる。注意しなければならないことは、この「のべ」「ことなり」が語数ではなくて、問題になる箇所の数だということである。ことなり語数が「ムード」「ムームー」の2語であるにもかかわらず、棒びきのことなり箇所数は「ムード」で1箇所、「ムームー」で前の「ムー」とあとの「ムー」2箇所、計3箇所である。

### (1) 漢字、符号など (原則 1)

外来語は、カタカナ表記のものが圧倒的に多いことは当然だが、漢字や符号による表記も、すこしはある。以下、度数5以上の語でこの種の表記をもつものを、分類してあげる。

#### (一般語の漢字表記)

ガラス	22	カリ	4	珈琲	3
硝子	6	加里	1	タバコ	13
ガラス戸	6	クラブ	13	たばこ	3
ガラス扉	1	くらぶ	2	煙草	19
硝子戸	2	倶楽部	6	蓑	2
<small>ガラスビ</small> 硝子戸	1	コーヒー	19	テーブル	21

テーブル	1	麦酒	2	釦穴 <sup>ぼたんあな</sup>	1
卓子	2	ボタン	39	ボタンホール	14
ハンカチ	8	釦	9	釦ホール <sup>ボタンホール</sup>	1
ハンケチ	1	ボタン穴	5	釦穴	1
手巾	1	ボタン孔	3	レモン	5
ビール	21	釦穴	5	檸檬	1

(一般語のローマ字頭文字による省略表記)

アームホール	2	シングル巾	4	PTA	3
A. H.	3	シングル幅	1	P・T・A	2
ウエスト	50	S巾	3	ヒット	13
ウエスト	23	ダブル巾	3	ヒツト	2
腹囲	1	ダブル幅	9	H	5
W	34	W巾	11	ヒップ	11
ウエスト線	7	W幅	1	腰囲	1
ウエスト線	10	バスト	8	H	14
W線	2	胸囲	1	ヤール巾	8
ウエストライン	3	B	2	ヤール幅	6
ウエスト・ライン	1	バスト線	7	Y巾	6
ウエスト・ライン	1	B線	2	Y幅	3
W. L	2	バストポイント	1	ワイシャツ	8
NHK	33	B P	1	Yシャツ	1
MGM	11	B. P	4	Yシャツ	2
LP	7	B. P.	1		

(地名・人名の漢字表記)

アメリカ	264	インド	30	サンフランシスコ	10
亜墨利加	1	印度	5	桑港	4
亜米利加	1	エトロフ	6	ドイツ	68
伊	6	択捉	2	独逸	1
イギリス	65	オランダ	15	東亜	11
英吉利	1	阿蘭陀	1	トルコ	7
イタリア	32	キリスト	9	土耳其	1
イタリヤ	3	クリスト	1	日露	4
イタリー	4	基督	1	日魯	7
イタリイ	1	クナシリ	5	ハボマイ	5
伊太利	2	國後	1	齒舞	3

パリ	31	巴里	14	仏蘭西	1
パリー	4	フランス	100		

(助数詞など)

インチ	16	仙	5	ページ	8
吋	6	ドル	87	頁	94
キロメートル	1	弗	6	p.	3
籽	3	トン	95	pp.	1
km	6	噸	1	ポンド	32
キロワット	9	屯	1	パウンド	2
KW	13	トン数	4	封度	2
グラム	23	屯数	1	マイル	11
瓦	1	ナンバー	1	哩	1
ゼロ	5	No	1	耗 [ミリメートル]	31
零	1	No.	1	メートル	37
センチ	358	NO.	2	米	35
サンチ	2	パーセント	35	m	14
c	77	バアセント	2	ワット	1
センチメートル	2	%	154	W	7
糶	124	フィート	6	ワン [one]	4
cm	233	フイト	2	1	2
セント	11	呎	1		

(現代中国語)

南京	7	梅	6	マージャン	3
北京	8	蘭芳	6	麻雀	3
香港	11				

上の表について、説明をつけくわえておく。

(1) 地名「パリ」の漢字表記が49例中14例とかなりおおいが、うち9例は「巴里祭」「われら巴里ッ子」「巴里の空の下セーヌは流れる」など、映画の題名である。

(2) 助数詞の「籽」「糶」「耗」は、すべて「キロメートル」「センチメートル」「ミリメートル」とよんであるが、これは調査のとき便宜上そう統一

しただけで、実際には「キロ」「センチ」「ミリ」とよむことがおおいであろう。「キロ～キロメートル」などを文脈によってよみわけるとは、不可能である。

## (2) 唇音のまえの「ン」～「ム」(原則 3)

「外来語表記の原則」には、

### 3. はねる音は「ン」と書く。

テンポ (tempo)      トランク (trunk)

とある。この例のうち、「トランク」は「トラヌク」という表記もありうるものと予想したのだろうか。しかし、[t] や [k] のまえで「ン」がゆれをおこす現象は、雑誌九十種の資料のなかでは気がつかなかったし、あるとしても、ごくまれだとおもわれるので、ここでは問題にしない。

ここでとりあげるのは、「テンポ～テムポ」の類、すなわち、唇音 b, p, f, m のまえの「ン」が「ム」と交替するものである。結果はつぎのとおりである。

	のべ			ことなり		
	ン	ム	ムの比率	ン	ム	ムの比率
mb	77	21	21.4	28	8	22.2
mp	135	7	4.9	42	5	10.6
m(n)f(ph)	10	—	—	5	—	—
mm	11	1	8.3	6	1	14.3
nb, np	10	—	—	7	—	—
計	243	29	10.7	88	14	13.7

ここで目につくことは、b のまえの方が、p のまえよりも「ム」になりやすい、ということである。(m のまえでは、その中間になるが、これは例がすくないから、考察の対象からはぶく。)

このことは、ある程度、音声上の根拠がみとめられるようである。すなわち、N のながさをしらべてみると、aNba の N の方が aNpa の N よりもなが

く、一般に「無声子音に先行するNよりも有声子音に先行するNの方が長めである傾向」がみとめられる。(高田正治「撥音の実験音声学的研究」国立国語研究所報告71『研究報告集—3—』1982, p. 206) 一方、心理的にはおなじながさだとしても、現実の発音ではNは mu とくらべて(もちろん、ほかの一般の音節とくらべても)みじかめに発音される。(高田正治・林大「文章朗読における調音上の二、三の特徴について」日本音響学会音声研究会資料S 78—79, 1979) したがって、発音のながさは、 $\text{mu} > \text{N(b)} > \text{N(p)}$  であって、N(b)の方がmuにちかひのである。これをN(b)の表記として比較的「ム」のおおい決定的な理由とみなすことは、できないだろう。しかし、「ン」と「ム」のゆれが、まったく偶然のものではないことを推測させる手がかりにはなるはずである。

〔実例(度数5以上)〕

アンサンブル	13	コロムビア	1	No.	4
オリンピック	14	コンビ	5	ポンプ	5
キャンプ	7	ジャンパー	10	マンボ	7
キャンプ	1	ジャンパー	1	マンボー	1
キャンプ	3	ジャムパー	1	メンバー	11
キャンプネラ(人名)	4	チャンピオン	9	メンバア	1
キャンプネラ	1	チャンピオン	4	ランプ	15
コロムビア	8	テンポ	9		
コロムビア	8	ナンバー	1		

### (3) 長音(原則7)

まず最初にはっきりさせておかなければならないことは、「長音」の範囲である。棒びきによる「ボート」「サッカー」の類は問題ない。まえの拍の母音にあたるかなをかいた「ボオト」「サッカア」なども長音とみていいだろう。ここでは、さらに、つぎのようなものも長音の表記とみとめた。

(/イ段のかな/+/「イ」以外の母音かな/)

「カルシウム」「イニシアチブ」の類である。これらは「カルシュー-

ム」「イニシャーチブ」ともかかれる可能性があり、発音のうえで区別をつけることはむずかしい。おなじ表記でも、「シアター」「リアカー」などは「シャーター」「リャーカー」といわれ(かかれ)ることがないとおもわれるので、長音にしなかった。

(/エ段のかな/+「イ」)

「ティブル」は「テェブル」「テエブル」とおなじ音の表記とみとめた。

(/オ段のかな/+「ウ」)

「ショウ」は「ショー」「シヨオ」とおなじ音の表記とみとめた。

なお、理論上はむじゅんしたことになるが、小文字の母音かなも、これにさらに棒びき符号のついたものも、1つの長音をあらわすものとした。すなわち、

「バァ」=「バァー」=「バー」

「リィ」=「リィー」=「リー」

である。これら「バァ」「リィ」の類は、短音と長音とのあいだくらいの長さのつもりかもしれない。さらに、この小文字が大文字になった「セクレタリィー」があり、これは「リィー」と3拍にしかよめないはずだが、「リー」とおなじ音の表記とみとめた。

一方、エ段の「テ」「デ」に小文字の「ィ」のついた「ティ」「ディ」は短音とした。つまり、おなじ「イ」が「リィ」のばあいには長音符号として、「ティ」「ディ」のばあいには [te] [de] を [ti] [di] にかえるための符号として、はたらいっているとみとめたわけである。

### [表記の型ごとの集計]

(ア段)

	のべ	ことなり	例
A <sub>0</sub> /ア段のかな/+「ー」	2171	747	サーカス
A <sub>1</sub> /ア段のかな/+「ァー」	1	1	ウォー <u>ナー</u> ァー
A <sub>2</sub> /ア段以外のかな/+「ァー」	49	33	オー <u>ヴァ</u> ァー, マ <u>ニ</u> ァァーニ

A <sub>3</sub> /ア段以外のかな/＋「ャー」	92	27	<u>チャー</u> チル
A <sub>4</sub> /ア段以外のかな/＋「ヤー」	5	2	マネー <u>ジャー</u>
B <sub>0</sub> /ア段のかな/＋「ア」	81	37	<u>スタア</u>
B <sub>1</sub> /ア段のかな/＋「ァ」	3	3	<u>バァ</u> テン
B <sub>2</sub> /ア段以外のかな/＋「ァア」	1	1	<u>ファア</u>
B <sub>3</sub> /ア段以外のかな/＋「ャア」	2	1	リ <u>チャア</u> ド
B <sub>4</sub> /ア段以外のかな/＋「ア」	2	2	イズヴエス <u>チア</u>

(イ段)

	のべ	ことなり	例
A <sub>0</sub> /イ段のかな/＋「ー」	1105	429	<u>ビニール</u>
A <sub>1</sub> /イ段のかな/＋「イー」	1	1	セレクト <u>リイー</u>
A <sub>2</sub> /ウ段のかな/＋「イー」	37	13	<u>ツイード</u>
A <sub>3</sub> /ウ段のかな/＋「イー」	2	2	<u>ヴァイナ</u> ス
A <sub>4</sub> /エ段のかな/＋「イー」	35	20	<u>ディー</u> ゼル
A <sub>5</sub> /エ段のかな/＋「イー」	2	2	スピー <u>ディー</u>
B <sub>0</sub> /イ段のかな/＋「イ」	132	82	<u>スキイ</u>
B <sub>1</sub> /イ段のかな/＋「イ」	11	9	ファ <u>ニイ</u>

(ウ段)

	のべ	ことなり	例
A <sub>0</sub> /ウ段のかな/＋「ー」	375	149	<u>ブーム</u>
A <sub>1</sub> /ウ段以外のかな/＋「ゥー」	2	2	<u>ドゥー</u> リットル
A <sub>2</sub> /イ段のかな/＋「ュー」	242	95	<u>ニュー</u> ス
A <sub>3</sub> /イ段以外のかな/＋「ュー」	9	5	<u>フュー</u> ザン
A <sub>4</sub> /イ段のかな/＋「ユー」	3	3	スケ <u>ジュール</u>
B <sub>0</sub> /ウ段のかな/＋「ウ」	13	9	<u>ツウ</u> ピース
B <sub>1</sub> /ウ段のかな/＋「ゥ」	1	1	ランデ <u>ヴウ</u>
B <sub>2</sub> /イ段のかな/＋「ウ」	21	15	<u>リウ</u> マチス
B <sub>3</sub> /イ段のかな/＋「ュウ」	15	11	<u>チュウ</u> リップ
B <sub>4</sub> /イ段のかな/＋「ユウ」	1	1	インタ <u>ビユウ</u>
B <sub>5</sub> /イ段以外のかな/＋「イウ」	2	2	シン <u>ビディウ</u> ム

B<sub>6</sub>/イ段以外のかな/＋「イウ」 1 1 レヴィウ

(エ段)

	のべ	ことなり	例
A <sub>0</sub> /エ段のかな/＋「エ」	798	297	<u>ゲーム</u>
A <sub>1</sub> /エ段のかな/＋「エー」	3	2	<u>コンベエーヤー</u>
A <sub>2</sub> /エ段以外のかな/＋「エー」	47	24	<u>ジェームス</u>
B <sub>0</sub> /エ段のかな/＋「エ」	25	12	<u>ネエム</u>
B <sub>1</sub> /エ段のかな/＋「エ」	1	1	<u>テエブル</u>
C <sub>0</sub> /エ段のかな/＋「イ」	181	108	<u>エイト</u>
C <sub>1</sub> /エ段のかな/＋「イ」	3	2	<u>ウエイパー</u>
C <sub>2</sub> /エ段以外のかな/＋「エイ」	20	9	<u>ニューフェイス</u>

(オ段)

	のべ	ことなり	例
A <sub>0</sub> /オ段のかな/＋「オ」	1400	509	<u>コート</u>
A <sub>1</sub> /ウ段のかな/＋「オー」	68	28	<u>ヴォーグ</u>
A <sub>2</sub> /ウ段のかな/＋「オー」	2	2	<u>ユニフォーム</u>
A <sub>3</sub> /イ段のかな/＋「ョー」	56	22	<u>ショール</u>
A <sub>4</sub> /イ段のかな/＋「ョー」	2	2	<u>シヨ</u>
B <sub>0</sub> /オ段のかな/＋「オ」	12	9	<u>ラスコオ</u>
B <sub>1</sub> /オ段のかな/＋「オ」	1	1	<u>コルドオ</u>
B <sub>2</sub> /イ段のかな/＋「ョオ」	1	1	<u>シヨオ</u>
C <sub>0</sub> /オ段のかな/＋「ウ」	46	26	<u>ポウル</u>
C <sub>1</sub> /イ段のかな/＋「ョウ」	12	9	<u>ショウポート</u>
C <sub>2</sub> /イ段のかな/＋「ョウ」	3	2	<u>シヨウ</u>

以上の結果を総合すると、つぎのようになる。

	のべ	%	ことなり	%
(ア段)				
A (棒びき)	2318	96.3	810	94.8

B (+「ア」)	89	3.7	44	5.2
(イ段)				
A (棒びき)	1182	89.2	467	83.7
B (+「イ」)	143	10.8	91	16.3
(ウ段)				
A (棒びき)	631	92.1	254	86.4
B (+「ウ」)	54	7.9	40	13.6
(エ段)				
A (棒びき)	848	78.7 (97.0)	323	71.0 (96.1)
B (+「エ」)	26	2.4 (3.0)	13	2.9 (3.9)
C (+「イ」)	204	18.9	119	26.2
(オ段)				
A (棒びき)	1528	95.3 (99.1)	563	92.1 (98.1)
B (+「オ」)	14	0.9 (0.9)	11	1.8 (1.9)
C (+「ウ」)	61	3.8	37	6.1
計				
A	6507	91.7 (95.2)	2417	87.2 (92.4)
B	326	4.6 (4.8)	199	7.2 (7.6)
C	265	3.7	156	5.6

( ) 内は、Cをのぞいた%

### [C型表記の問題]

この表からわかるように、各段ごとに、A・B・C各類のあらわれかたはちがっている。

まず、C類について、エ段とオ段のちがいをみよう。あきらかに、「エイ」型の方が「オウ」型よりもおおくつかわれている。(18.8% : 3.8%) この差はどこからくるのか。ひとつ、かんがえられることは、原語の発音の影響である。つまり、もし原語の2重母音 [ei] [ou] が「エイ」「オウ」型に表記

されやすく、しかも [ei] の方が [ou] よりもおおければ、この差は説明がつく。

エ段全体について、このことをしらべるのは、たいへんなので、「エー～エイ」「オー～オウ」という表記の母音ではじまる長音についてだけ、しらべることにした。(「エエ」「オオ」という表記はなかった。) これらの原音として、長母音・2重母音のほかに「スエーデン [i:]」「スエーター [e:]」という例があったが、以下の集計では、はぶく。

のべについて、原音との関係を見ると、つぎの表ようになる。

	A (棒びき)	C (+イ, +ウ)
e:, e:	21	0
ei	22	10
o:	81	0
ou	49	3

一見してあきらかなように、原音が長母音のばあいには、すべてA型(棒びき)によっている。いいかえれば、C型(+イ, +ウ)の表記がとられるのは、原音が2重母音という意識があるときである、日本語内部の問題としても、C型を長音表記とみなすのは適当ではない、ということになるだろう。上の表では、長母音のC型表記が度数0だったが、もし標本をました結果、それがいくつかでてきたとしても、傾向としては、そういえるはずである。直接確率法による危険率の計算結果では、エ段で  $P=0.0033$ , オ段で  $P=0.0577$  だった。

つぎに、原音が長母音のばあいをのぞいて表をかんたんになると、

	A	C	Cの比率(%)
ei	22	10	31.3
ou	49	3	5.8

であり、eiの方がC型の比率がずっとたかい。(χ<sup>2</sup>=9.83) つまり、オ段よりもエ段でC型がおおい理由はなにか、という、まえにたてた問題にかえっていうならば、原音において [ei] が [ou] よりもおおいため、というより

も、そもそも [ei] の方が [ou] よりC型になりやすいのだ、という可能性がたかいたおもわれる。日本語自身の構造として、[ei] の方が [ou] よりもはいりやすい（このことは、[ei] をもつ方言がひろく分布していることから、いえる）。このことが、エ段でC型のおおいおもな理由であろう。

〔母音によるちがい〕

以下、A型（棒びき）とB型（母音かきそえ）とだけと比較する。

まず、母音による（つまり50音図の各段ごとの）ちがいをみてみよう。B型の比率のおおい順にならべると、

	のべ	ことなり
イ段	10.8	16.3
ウ段	8.0	13.6
ア段	3.7	5.2
エ段	3.0	3.9
オ段	0.9	1.9
平均	4.8	7.6

のようになり、せまい母音の方がB型になりやすい。のべについての  $\chi^2$  検定の結果では、ア段～エ段以外で、すべて有意差がある。

このような差が、なんらかの発音上の差に対応するものか（たとえば、せまい母音の方が、母音のくりかえしのようにきこえる？）、それとも純粹に表記上のことなのか（たとえば、和語でも語頭以外の「い」「う」がおおかった？）については、いまのところ、わからない。

ちなみに、「カー」「ヨー」「ヒョー」など、CV型音節の長音をのぞき、「アー」「イー」など、V型音節のばあいだけをぬきだすと、すべてA型（棒びき）で、

	のべ	ことなり
ア段	76	48
イ段	30	17
ウ段	28	9
エ段	60	23

オ段	109	54
計	303	151

となり、B型は、まったくみられない。これも、発音のせいか、表記面でのこのみか、わからないが、おもしろい現象である。

〔固有名詞と一般語〕

固有名詞（人名・地名）と、その他の一般語にわけると、

	のべ			ことなり		
	A	B	Bの比率	A	B	Bの比率
固有名詞	1556	174	10.1	788	107	12.0
その他	4951	152	3.0	1629	92	5.3

となり、固有名詞の方が、Bの比率がたかい。一般語にくらべて、固有名詞の方が、臨時にいくらでも日本語にはいつてくる可能性がたかく、それだけ、また、一般的な規則、傾向からは、ずれるかきかたがおおい、ということだろうか。

〔原語別〕

つぎに、外来語の原語別にしらべた結果をしめす。原語の決定は、まず、吉沢典男・石綿敏雄『外来語の語源』によったが、固有名詞その他、この辞典にでていない語もおおく、こまかい数字については自信がもてない。

	のべ			ことなり		
	A	B	Bの比率 (%)	A	B	Bの比率 (%)
英語	5471	234	4.1	1944	137	6.6
フランス語	345	55	13.8	168	34	16.8
ドイツ語	221	2	0.9	108	2	1.8
ロシア語	109	3	2.7	39	2	4.9
オランダ語	97	9	8.5	23	6	20.7
イタリア語	62	2	3.1	20	2	9.1
その他	111	8	6.7	63	5	7.4
不明	91	13	12.5	52	11	17.5

このように、原語によって表記法にかたよりがみられ、母音字をかきそえ

るB方式は、フランス語、つぎにオランダ語からの外来語がおおい。のべについての $\chi^2$ 検定の結果では、

フランス語と英語・ドイツ語・ロシア語・イタリア語

オランダ語と英語・ドイツ語

とのあいだに、有意差がみとめられる。

〔語中と語尾〕

ここで「語尾」とよぶのは、厳密には、日本語としての形態素末の位置であり、「語中」はそれ以外の位置である。したがって、「コーヒー店」「コーヒーカップ」などの「ヒー」は語末にあることになる。以下、問題になりそうな認定の例をあげる。\_は語尾、...は語中と認めたものの例である。

タイガース (Tigers)

メリーランド (Maryland)

ニュージーランド (Newzealand)

ニューヨーク (New york)

ニューフェース (new face)

メーデー (May Day)

結果はつぎの表のとおりで、語尾の方がB（母音字表記）の比率がたかい。

		のべ			ことなり		
		A	B	Bの比率 (%)	A	B	Bの比率 (%)
ア段	語中	1282	35	2.4	408	22	5.1
	語尾	1036	54	5.0	402	22	5.2
イ段	語中	715	14	1.9	252	7	2.7
	語尾	467	129	21.6	215	84	28.1
ウ段	語中	562	40	6.6	218	31	12.4
	語尾	69	14	16.9	36	9	20.0
エ段	語中	758	4	0.5	276	4	1.4

語尾	90	22	19.6	47	9	16.1
オ段 語中	1398	5	0.4	501	5	1.0
語尾	130	9	6.5	62	6	8.8
計 語中	4715	98	2.0	1655	69	4.0
語尾	1792	228	11.3	762	130	14.6

【実例 (度数5以上)】

アイスクリーム	6	後ヨーク	5	カーブ	12
アームホール	2	エネルギー	14	カーヴ	3
A・H	3	精力 <sup>エネルギー</sup>	1	カーブ線	1
アカデミー	9	エピソード	7	カーヴ線	4
アカデミー	10	エピソード	8	カーリー (人名)	2
アクセサリー	15	エメラルド	4	カーリイ	4
アクセサリイ	1	エメロード	1	カウンター	10
アセテート	7	オーケストラ	8	カバー	10
アパート	34	オーストラリア	3	カラー [color]	9
アルコール	13	オーストラリヤ	2	カラー [collar]	19
アルミニウム	2	オートメーション	6	カルシウム	3
アルミニウム	2	オートメーション	1	カルシウム	1
アルミニウム	1	オートメーション	1	カルシウム	1
アレルギー	5	オーバー	16	カレー粉	5
イタリア	32	オーヴァー	4	カロリー	6
イタリア	3	オープン	5	ギター	7
イタリア	4	オール [all]	4	ギャザー	19
イタリア	1	オール <sup>オール</sup> 全	1	ギャザー分	12
伊太利	2	オールスター	2	ギャザー分	1
イメージ	10	オール・スター	2	キャパレー	8
イメージ	1	オール・スターズ	1	キロメートル	1
ウィーン	19			籽	3
ウィーン	2	ガーター編	5	km	6
ウィーン	1	カーディガン	12	クリーム	26
ウィンナ	1	カーティス (人名)	4	グリーン	16
ウィスキー	9	カアティス	3	緑 <sup>グリーン</sup>	1
ウィスキー	4	カーテン	12	グループ	37
ウィスキー	1	カード	11	ぐるーぶ	1
ウール	18	札 <sup>カード</sup>	1	グレー	8

グレイ	27	ジェイムズ	1	ジョウインズ	1
グレース (人名)	2	シェークスピア	4	シリーズ	6
グレイス	4	シェイクスピア	5	シリーズ	1
ゲージ	21	シエクスピア	1	スウ (人名)	5
ケース [case]	4	ジッパ	11	スーツ	14
ケイス	1	シネマスコープ	8	スーパー	5
ケーブ	8	ジャージー	7	スूप	15
ゲーム	18	ジャージイ	3	スウェーデン	11
ケリー (人名)	4	ジャーナリスト	8	スウェーデン	4
ケリイ	1	ジャーナリズム	8	スカート	123
コース [course]	16	シャッター	9	スカート丈	20
コーチ	14	ジャンパー	10	スキー	9
コート [coat]	28	ジャムパー	1	スキイ	1
コーヒー	19	ジャンパー	1	スクール	5
珈琲	3	ジュース	5	SCHOOL	1
コーラス	6	シュート	7	スクリーン	9
ゴールドデン	6	ジュニア	4	screen	1
コクトー (人名)	7	ジュニア	1	スケート	8
ゴムテープ	5	ジュニア向き	5	スケール	5
ゴム・テープ	2	ジュニア向	1	スケジュール	6
コンクール	8	シュールリアリズム	3	スケジュール	8
コンクリート	10	シュールリアリズム	3	シュジュールド	1
コンサート	7	シュールリアリズム	1	スター	27
今シーズン	6	シュールリアリズム	1	スターズ	2
コントロール	8	ショー	2	スタア	28
		シヨ	1	スタート	11
サーカス	6	ショウ	1	スターリン (人名)	45
サークル	14	シヨウ	2	ステージ	8
サービス	22	ジョー (人名)	5	ステイジ	2
サービス	1	ジョー	1	ストーブ	8
サラリーマン	23	ジョウ	1	ストーリー	4
シーズン	19	ショーウィンドー	1	ストーリイ	1
シーツ	5	ショー・ウィンドー	1	ストオリ	1
ジープ	6	ショーウィンドー	1	スピーカー	6
シーン [scene]	6	ショウ・ウィンドー	1	スピード	10
ジーン (人名)	5	ショウ・ウィンドウ	1	スポーツ	57
ジェームス (人名)	6	ジョージ (人名)	15	スポーツシャツ	1
ジェームズ	2	ジョーンズ (人名)	4	スポーツ・シャツ	4
ジェイムス	2	ジョンズ	1	スポーティ	1

スポーツィ	6	チュウリップ	1	ドレッシイ	2
スポンサー	16	ツウィード	2	ナンバー	1
スマート	15	ツイード	3	NO.	2
スリーブ	3	ツイード	1	No.	1
スリーヴ	7	ツウピース	9	No	1
スリラー	5	ツウピース	1	ニューアンス	6
スリラア	1	ディーゼル	4	ニューアンス	1
セイロン	6	ジーゼル	1	ニュース	16
セーター	13	デーゼル	1	ニューフェース	2
スエーター	7	デイゼル	1	ニュー・フェース	1
セロテープ	6	ディーン (人名)	3	ニューフェイス	1
センター	10	デーン	2	新顔	1
センチメートル	2	デイン	1	ニューヨーク	35
糎	124	デー (人名)	1	ヌード	5
cm	233	デイ	3	ノイローゼ	9
ソビエト	1	ディ	1	ノート	8
ソヴィエト	2	テープ	10	ノルウェー	3
ソヴェート	2	テーブル	21	ノルウエー	2
ソヴェト	10	テュブル	1	ノールウエー	1
ソヴェト	4	卓子	2	ノルウェイ	1
ソース [sauce]	10	テーマ	19	バー	12
ソーダ	5	デパート	13	バア	5
		デザイナー	9	バーグマン (人名)	5
		デザイナア	1	パーセント	35
ダーツ	74	デビュー	11	ペアセント	2
ダーツ分	12	ドア	21	%	154
ダービー	8	ドアー	5	パーティー	5
タイガース	11	ドァー	1	パーティ	13
大スター	6	扉	2	パーティー	1
大スタア	1	トーマス (人名)	2	パーティー	1
タイトスカート	5	トマス	1	バスルーム	5
タクシー	7	ドジャース	3	バター	30
タクシイ	4	ドジャーズ	2	バタ	1
チーズ	5	トニー (人名)	6	パターン	4
チーム	49	トニイ	1	パタン	4
ティーム	4	トレーニング	10	バター	8
チトー (人名)	11	ドレープ	3	バッタース	1
チャーチル	6	ドレイプ	10		
チャーチル	1	ドレッシー	3		
チュウリップ	6				

バッテリー	6	ブルー	14	ホームラン	11
パリ	30	ブリュ	1	ポーランド	13
ド・パリ	1	ブルガーニン (人名)	6	ホール [hall]	17
パリー	4	フレア	4	ボール [ball]	15
巴里	14	フレヤー	1	ホールデン (人名)	7
バレ [ballet]	2	ブレ	4	ボール	12
バレエ	7	プレイ	2	ボウル	1
ハンガリー	10	フレーム	6	ボタンホール	14
ハンガリア	2	プレーヤー	4	鉤 <small>ボタンホール</small> ホール	1
ピーター (人名)	7	プレイヤー	2	鉤 <small>ボタンホール</small> 穴	1
ビーム [beam]	7	プレーヤー	1	ボディビル	2
ビール	21	ブレン	13	ボディ・ビル	2
麦酒	2	ブローカー	6	ボディビル	2
ピエール (人名)	11	ブローチ	5	ボビュラー	6
ピクチャー	7	プロデューサー	3	ボリウム	3
ピッチャー	12	プロジェクター	1	ボリウム	1
ヒットラー	3	プロデューサー	1	ヴォリウム	1
ヒットラー	2	ペーコン	5	マーク	8
ビニール	19	ページ	8	マーケット	6
ビヤホール	5	p.	3	マーサ (人名)	1
ビリー (人名)	4	pp.	1	マアサ	7
ビリイ	5	頁	94	マージャン	3
ファスナー	9	ページュ	7	麻雀	3
ファンレター	5	ペートーベン	1	マーティン (人名)	5
フィート	6	ペートーヴェン	4	マロン (人名)	7
フィート	2	ペートヴェン	1	マアロン	1
呟	1	ペティコート	8	前スカート	13
フィルター	10	ペテイコート	1	前ヨーク	6
ブーム	24	ベルギー	6	マスター	4
フォード (人名)	18	ヘンリー (人名)	5	マスターズ	1
フォーム	10	ボ [bow]	3	マスタア	1
フォルム	1	ボウ	11	マッカーサー	4
ブラボー	6	ボーイ	13	マックアーサー	1
フランキー (人名)	3	ボーズ	12	マッサージ	8
フランキイ	2	ボート	16	マッサアジ	1
ブランド (人名)	8	ボナス	10	マネージャー	2
ブランドー	1	ホーム	5	マネージャー	4
フリー	5	ホーム	2	マネジャー	1
ブリーツ	12	ホーム [home]	6	マヨネーズ	7

マリー (人名)	2	モスクワ	23	レバー	3
マライ	3	モスコー	2	リリー (人名)	8
マレー [Marraais]	2	モダン	8	ルイ (人名)	4
マレエ	4	モダン	1	ルーイ	1
マレー (地名)	5	モチーフ	6	ルノー (人名)	5
マライ	3	モンロー (人名)	9	レース [lace]	11
マンボ	7	モンロウ	1	レース [rase]	9
マンボー	1			レーニン	8
ミュージカル	13	ヤール	63	レーヨン	12
ミュージカルス	3	ヤール巾	8	レクリエーション	2
ミュウジカル	2	ヤール幅	6	リクリエーション	3
ミュージック	6	Y巾	6	レコード	44
ムード	7	Y幅	3	ローウエスト	3
メーカー	27	ユーゴ (地名)	9	ロー・ウエスト	2
メートル	37	ユーモア	11	ロー・ウエスト	3
m	14	ユニホーム	2	ロウウエスト	2
米	35	ユニフォーム	3	ローション	5
メロデー	2	ユニフォーム	1	ローズ [rose]	6
メロディー	5	ヨーク [yoke]	13	ロープ	5
メロディ	3	ヨーク付け	6	ローマ	12
メンバー	11	ヨーロッパ	19	ローラー [roller]	9
メンバア	1	ヨーロッパ	1	ローリイ (人名)	1
モーター	12	ラード	8	ローリイ	1
モーターズ	2	ラブシーン	1	ロウリイ	4
モーターズ	4	ラブ・シーン	3	ロケーション	8
モーターボート	5	ラヴ・シーン	1	ロケイション	1
モーツァルト	5	ラリー (人名)	5	ロバート (人名)	9
モーツァルト	1	リーグ	10	ロベール (人名)	5
モツァルト	1	リード	8	ロベエル	1
モード	4	リチャード (人名)	5	脇グーツ	6
Mode	1	リチャアド	2	ワグナー (人名)	5
モーニング	5	リバー [liver]	2	ワンピース	41

(4) イ列・エ列のつぎの「ア」～「ヤ」(原則8), 「オ」～「ヨ」; ウ列・オ列のつぎの「ア」～「ワ」

「外来語表記の原則」には、「イ列・エ列の音の次の「ア」の音は、「ヤ」と書かずに「ア」と書く。」とあるだけだが、「ロザリオ～ロザリヨ」や「ル

「ノアール〜ルノワール」も、これと同類の現象とみられるので、あわせてとりあげる。

	のべ			ことなり		
	ア	ヤ	ヤの比率	ア	ヤ	ヤの比率
ia	417	198	32.2	150	74	33.0
ea	82	12	12.8	42	7	14.3
	オ			ヨ		
	オ	ヨ	ヨの比率	オ	ヨ	ヨの比率
io	161	4	2.4	49	4	7.5
eo	27	13	32.5	15	2	11.8
	ア			ワ		
	ア	ワ	ワの比率	ア	ワ	ワの比率
oa	73	18	19.8	24	12	33.3
ua	29	2	6.5	14	2	12.5

これによれば、原則とちがう表記がもっとも多いのは「ia」のばあいである。のべの方では、eo→ヨの比率がいちじるしくたかいが、これは「クレヨン」「レーヨン」の2語であり、どちらも、つぎにのべる yo の問題に関係しているので、別に考えるべきである。

じつは、「原則」の表現は不正確・あいまいで、「ア」の音であることがはっきりしているなら、イ列・エ列の次にあるうとなかろうと、当然「ア」とかくべきものである。＜イ列・エ列の音の次にあつて、「ア」の音か「ヤ」の音かまぎらわしいものは、「ア」と書く。＞とでもすべきところである。これは、あくまでも日本語内部の問題で、原語での発音やつづりは関係ない。

以下、原語のつづりとの関係で分類しなおすことにする。

(ia)

原語のつづりの種類からすると、つぎのようなものがある。

<u>ピアノ</u>	<u>piano</u>
<u>イズヴェスチア</u>	<u>izvestiya</u>
<u>ジュリアス</u>	<u>Julius</u>
<u>ピアース</u>	<u>Pierce</u>

ジュニア	<u>junior</u>
スーヴェニア	<u>souvenir</u>
アンパイア	<u>umpire</u>
ルヒアルト	<u>Richard</u>
イヤリング	<u>earring</u>
グリア	<u>Greer</u>
グラビア	<u>gravuer</u>
フォイアマン	<u>Feuermann</u>

いま、原語で ia のつづりをもつもの（上の例では piano だけ）、y をふくむもの（ya, yer など）と、それ以外とにわけて集計しなすと、結果は、つぎのようになる。（原つづり不明のものがいくつかあったが、これは推定して分けた。ea などの項についても同じ。）

原語	のべ			ことなり		
	ア	ヤ	ヤの比率	ア	ヤ	ヤの比率
ia	311	129	29.3	111	38	25.5
ya など	32	26	44.8	6	10	62.5
その他	66	43	39.4	30	26	46.4

このように、原つづりと日本語としての表記法とのあいだには、相関があり、ia のもの > 「その他」 > y をふくむもの の順に「ア」による表記の率がたかい。

(ea)

原つづりの種類には、つぎのようなものがある。

アイデア	<u>idea</u>
スポーツウェア	<u>sports wear</u>
ヘアースタイル	<u>hairstyle</u>
フレアー	<u>flare</u>
アトモスフェア	<u>atmosphere</u>
インディアンズ	<u>Indians</u>

プレーヤー                      player

これらを、ea をふくむもの (idea, sports wear), y をふくむもの、その他にわけた結果は、つぎのとおり。

日本語 原語	の べ		ことなり	
	ア	ヤ	ア	ヤ
ea	46	—	20	—
ya など	—	6	—	2
その他	26	5	19	4

ここでも、例はすくないが、原つづりで ea のものは「ア」に、y をふくむものは「ヤ」になりがちだという傾向がみてとれる。

(io)

このばあい、ほとんどが io という原つづりに対応する。例外は、「オ」の方で「モントリオール (Montreal)」, ヨの方で「ブイヨン (bouillon)」があり、ほかに原つづり不明の「ラニヨン」という人名の例があるだけである。したがって、原つづりとの関係については、なにもいえない。

(eo)

これも、例はごくすくないのだが、「オ」の 6 例はすべて eo という原つづりを持ち、「ヨ」の 2 例は「クレヨン」(crayon) と「レーヨン (rayon)」で、ともに y をふくんでいるのが注目される。

(oa)

原つづりとしては、

ココア	<u>cocoa</u>		
ルノアール	<u>Renoir</u> ,	ボワイエ	<u>Boyer</u>
フロア	<u>floor</u> ,	ボルチモア	<u>Baltimore</u>
ユーモア	<u>humour</u>		
ナジモワ	<u>Nazimova</u>		

などがある。これらを、oa をふくむもの、va をふくむもの、oi, oy をふくむもの、その他にわける。

原語	のべ		ことなり	
	日本語	ア	ワ	ア
oa	10	—	6	—
va	—	2	—	1
oi, oy	8	13	6	9
その他	51	2	9	1

ここでも、原つづりとの関係はあきらかである。

(ua)

カジュアル            casual  
 アデナウアー        Adenauer

のように、wをふくまないものと、

スチュアートスチュワート        Stewart

のように、wをふくむものとのにわける。

原語	のべ		ことなり	
	日本語	ア	ワ	ア
wなし	13	—	7	—
wあり	7	2	4	2

例はわずかだが、やはり原つづりと関係がありそうである。

[実例 (度数 5 以上)]

(ia)

アイデア	8	インディアン	2	ギリシア	2
アイディア	3	インデアンス	1	ギリシャ	2
アジア	29	インドネシア	4	ギリシャ	5
イアリング	3	インドネシヤ	1	ギリシヤ	4
イヤリング	2	ウィリアム (人名)	12	グラビア	6
イタリア	32	ウイリアム	1	コロンビア	8
イタリヤ	3	オーストラリア	3	コロムビア	8
イタリー	4	オーストラリヤ	2	コロムビヤ	1
イタリイ	1	カナリヤ	8	シェークスピア	4
伊太利	2	カリフォルニア	6	シェイクスピア	5
インディアン	11	カリフォルニヤ	2	シェクスピア	1

シベリア	6	マリア (人名)	6	(io)	
シベリヤ	2	マルシアノ (人名)	6	スタジオ	12
ジャイアンツ	4	メリヤス編	55	スタディオ	1
ジャイアンツ	1	リアリズム	4	チャンピオン	9
Giant	1	レアリスム	1	チャンピオン	4
ジュニア	4	ロシア	25	バイオリン	1
ジュニア-	1	ロシア	10	ヴァイオリン	7
ジュニア向き	5	ロシア	1	ラジオ	55
ジュニア-向	1	(ea)		(eo)	
ソフィア (人名)	4	シュールレアリスム	3	ナポレオン	5
ソフィア	1	シュールレアリスム	3	レーヨン	12
タイヤ	5	シュールレアリスム	1	(oa)	
バイアス	4	シュールレアリスム	1	ドア	21
バイヤス	18	フレアー	4	ドアー	5
ハンガリー	10	フレヤー	1	ドアー	1
ハンガリア	2	プレーヤー	4	扉	2
ピアノ	17	プレイヤー	2	(ua)	
ピヤホール	5	プレイヤー	1	ニュアンス	6
ペルシア	2	レアリスム	1	ニュアンス	1
ペルシャ	3	リアリズム	4		

### (5) f と v (原則10)

はじめに、音節ごとの結果をしめす。じつは、はねる音「っ」がちいさくかかれるとはかぎらないように、「フィルム」と「フィلم」とを区別しないでかいている文章もあるとおもわれるのだが、ここでは「ァ」「ィ」などの大きさによって、機械的に「ファ」の類と「フア」の類とをわけた。

[f]		のべ		ことなり	
			%		%
fa	ファ	182	84.7	66	90.4
	フア	32	14.9	6	8.2
	ハ	1	0.5	1	1.4
fi	フィ	123	72.8	49	75.4
	ファイ	21	12.4	10	15.4

	ヒ	25	14.8	6	9.2
fe	フェ	29	85.3	22	84.6
	フエ	5	14.7	4	15.4
	へ	—	—	—	—
fo	フォ	97	89.0	43	86.0
	フオ	1	0.9	1	2.0
	ホ	11	10.1	6	12.0
[v]	のべ		%	ことなり	%
va	ヴァ	80	43.0	52	49.1
	ヴァ	4	2.2	4	3.8
	バ	102	54.8	50	47.2
vi	ヴィ	73	28.6	53	52.0
	ヴィ	6	2.4	5	4.9
	ビ	176	69.0	44	43.1
v(u)	ヴ	75	56.4	35	57.4
	ブ	58	43.6	26	42.6
ve	ヴェ	63	52.9	38	61.3
	ヴェ	2	1.7	2	3.2
	ベ	54	45.4	22	35.5
vo	ヴォ	4	18.2	4	30.8
	ヴォ	2	9.1	2	15.4
	ボ	16	72.7	7	53.8

「原則」では、「ファ」～「ヴァ」…の音は、なるべく「ハ」「ヒ」「ヘ」「ホ」「バ」「ビ」「ブ」「ベ」「ボ」と書く、としている。しかし、この結果をみるかぎり、原則にそった表記はそう多くない。f, vそれぞれについて、各音節をまとめると、

f	のべ		ことなり	
		%		%
「ファ」類	431	81.8	180	84.1
「フア」類	59	11.2	21	9.8
「ハ」類	37	7.0	13	6.1

v	のべ		ことなり	
		%		%
「ヴァ」類	295	41.3	182	52.9
「ヴァ」類	14	2.0	13	3.8
「バ」類	406	56.8	149	43.3

となり、「原則」にそった「バ」類は約半分、「ハ」類は1割にもならない。  
 (なお、「ハ」類・「バ」類とも、ことなりより、のべで比率がたかいことは、これらが、よく使われて、日本語化の度合いのたかい語におおいことをしめす。)

f と v とで、このように日本語へのうけいれ方がちがうのは、fの方が音韻としてはいりやすいためであろう。すなわち、vが日本語にない音であるのに、fの方は〔Φu〕という両唇音の形ではすでに存在し、「ファ」などは、その母音をとりかえた〔Φa〕という形で、かんたんにつくりだせるのである。したがって、これを「ハ」にした「ハイト(fight)」「ホークダンス(folk dance)」などという表記は、かえて異様である。

各類の表記のあらわれ方を語中・語尾にわけた結果がつぎの表である。  
 (「コーヒー」「オーヴァー」のような長音は、語尾とした。)

f	のべ			ことなり		
	語中	語尾	語尾の比率	語中	語尾	語尾の比率
「ファ」類	415	16	3.7	170	10	5.6
「フア」類	57	2	3.5	20	1	4.8
「ハ」類	13	24	64.9	8	5	38.5

  

v	のべ			ことなり		
	語中	語尾	語尾の比率	語中	語尾	語尾の比率
「ヴァ」類	232	63	21.4	148	34	18.7
「ヴァ」類	11	3	21.4	11	2	18.2

「バ」類 234 172 42.4 95 54 36.2

「ハ」類・「バ」類は語尾におおいが、この理由をどう説明すべきかは、わからない。

[実例 (度数 5 以上)]

(f)

カリフォルニア	6	ファン	24	フィンランド	2
カリフォルニア	2	ファンレター	5	フィンランド	3
コーヒー	19	フィート	6	フォード (人名)	18
珈琲	3	フィット	2	フォーム [from]	10
ソフィア (人名)	4	吠	1	フォルム	1
ソフィア	1	フィリピン	6	フォックス	7
ファイト	8	フィリッピン	1	ユニフォーム	3
ファイト	3	フィルター	10	ユニフォーム	1
ファスナー	9	フィルム	33	ユニホーム	2
ファン	69	フィルム	9		

(v)

アベック	8	スリーヴ	7	ビニロン	6
ウィーン	19	ソビエト	1	ブラボー	6
ウイン	2	ソヴィエト	2	ベートーベン	1
ウィンナ	1	ソヴェート	2	ベートーヴェン	4
ヴィーン	1	ソヴェト	10	ベートヴェン	1
オーバー	16	ソヴェト	4	ベテラン	18
オーヴァー	4	デヴィット	4	ヴェテラン	4
カーブ	12	ダヴィット	1	ボリュウム	3
カーヴ	3	テレビ	52	ボリュム	1
カーブ線	1	TV	5	ヴォリュウム	1
カーヴ線	4	ドライブ	5	ラブシーン	1
カバー	10	ドライブ	1	ラブ・シーン	3
グラビア	6	バイオリン	1	ラヴ・シーン	1
サービス	22	ヴァイオリン	7	リバー [liver]	2
サーヴィス	1	ビクター	7	レバー	3
ストーブ	8	ビタミン	17	レベル	5
スリーブ	3	ビニール	19		

(6) ti と di (原則11)

これらは、「原則」では、なるべく「チ」「ジ」と書く，となっているが，  
実態は下のとおりで，原則どおりの表記は半分以下である。

ti	のべ		ことなり	
		%		%
チ	176	47.4	68	43.9
ティ	142	38.3	70	45.1
テイ	9	2.4	8	5.2
テ(-)	44	11.9	9	5.8

di	のべ		ことなり	
		%		%
ジ	98	37.5	22	21.0
ディ	128	49.0	60	57.1
デイ	15	5.7	13	12.4
デ(-)	20	7.7	10	9.5

語中と語尾とにわけると，語尾の方が「ティ」「ディ」になりやすいよう  
である。

ti	のべ			ことなり		
	語中	語尾	語尾の比率	語中	語尾	語尾の比率
チ	171	5	2.8	64	4	5.9
ティ	81	61	43.0	42	28	40.0
テイ	3	6	66.7	2	6	75.0
テ(-)	42	2	4.5	7	2	22.2

di	のべ			ことなり		
	語中	語尾	語尾の比率	語中	語尾	語尾の比率
ジ	90	8	8.2	18	4	18.2
ディ	96	34	26.2	44	17	27.9
デイ	8	6	42.9	7	5	41.7
デ(-)	18	2	10.0	9	1	10.0

「チ～ティ」「ジ～ディ」の差は，その語が日本語にはいつ年代と関係  
があるだろう。しかし，このことは，はっきりはでてこなかった。下の表  
は，固有名詞をのぞいた一般語を，榎垣実『増補外来語辞典』によって年代

別にわけたものである。(数は、もちろん、ことなり数である。)

	江戸	明治	大正	昭和	現代	不明
チ	3	7	6	18	7	4
ティ	—	5	6	12	5	8
ジ	—	3	1	9	—	1
ディ	—	6	6	14	2	3

【実例 (度数 5 以上)】

(ti)

アルゼンチン	5	チーム	4	ベティコート	8
エチケット	8	チトー (人名)	11	ベティコート	1
カーティス (人名)	4	パーティー	5	マーティン (人名)	5
カアティス	3	パーティ	13	モチーフ	6
ステッチ	34	パーター	1	ロマンチック	4
スポーティー	1	パーティ	1	ロマンチック	1
スポーティ	6	プラスチック	8	ロマンティック	4
チーム	49	プラスチック	1		

(di)

アイデア	8	ディーゼル	4	ボディ・ビル	2
アイディア	3	ダイゼル	1	ボディビル	2
インディアン	11	ジーゼル	1	メロディー	5
インディアン	2	ダーゼル	1	メロディ	3
インディアンズ	1	ディーン (人名)	3	メロデー	2
カーディガン	12	デーン	2	ラジオ	55
スタジオ	12	デイン	1		
スタジオ	13	ボディビル	2		

## (7) 語末の -er- など (原則16)

「外来語表記の原則16」は、「原語 (特に英語) のつづりの終りの -er, -or, -ar などをかながきする場合には、長音符号「ー」を用いる。」というものである。これは、実は表記の規定ではなく、語末の -er など長音にす

る、という発音上の規定である。発音が長音であれば、それは、原則7によって、当然長音符号でかかれることになる。

ここでは、対象をつぎの範囲に限定した。

- a) 原語が英語であるもの。したがって、「ワグナー (Wagner)」は対象外。
- b) 文字どおり語末 (β 単位末) にあるもの。したがって、「センター前 (center)」「タイガース (tiger)」は対象外。
- c) -er などが、前の部分とちがった発音上の単位になっているもの。したがって、「wear」「hair」「hour」は対象外。
- d) 原語のつづりが、つきとめられるもの。「ピースター」「ベーガー」など、いくつかの人名は、原語で -er などのつづりをもっている可能性があるが、確認できなかったので除外。

結果は、つぎのとおりである。

	の べ		ことなり	
	長音	短音	長音	短音
-ar	158	5	38	3
-er	601	9	206	7
-or	92	27	29	2
-ur	10	—	4	—
計	861	37	277	12

以下に、短音の全例をあげる。

(high) collar	ハイカラ	2	
Himalayan cedar	ヒマラヤシーダ	2	
familiar	ファミリヤ	1	
Greer (人名)	グリア	1	
butter	バタ	1	(バター 30)
beaver	ビーヴァ	1	(ビーバー 1)
homer	ホーマ	2	(ホーマー 5)
Mr	ミスタ	1	
slipper	スリッパ	2	
spanner	スパナ	1	

junior	ジュニア	4	(ジュニア- 1)
door	ドア	21	(ドア- 5)
	<sup>ドア</sup> 扉	2	ドア- 1)

この規定が問題になるのは、技術関係で「コンピュータ」など短音での表記がふつうであるためだが、一般用語・用字としては、上にみるとおり、長音が圧倒的である。

## (8) 文研調査との比較

NHK放送文化研究所では、外来語の表記と発音についてのアンケート調査を実施し、209人からの回答をえた。結果は、

石野博史「外来語の表記と発音」(『文研月報』1974年7月号)にまとめられている。表記については、「テレビの画面に書き表す場合、どちらの形で書くのがよいでしょうか。」というたずねかたで、2つの表記形的一方をえらばせる、という方法によっている。ここでは、雑誌90種に実際にあらわれた形を、識者のえらんだ形とくらべてみることにする。ただし、雑誌の方は度数5以上の語にかぎる。また、文研の調査結果が、すべてパーセントで出ているので、雑誌の方もこれになった。

(ia)

	アジア	アジャ	イタリア	イタリア
文研	89	8	68	26
雑誌	100	0	76	7

	ピアノ	ピヤノ	ロシア	ロシヤ
文研	96	2	76	18
雑誌	100	0	69	31

(f)

	ファイト	フアイト	ファン	フアン
文研	79	18	78	21
雑誌	100	0	74	26

	フィルム	ファイル	フィンランド	フィンランド
文研	70	28	70	25
雑誌	79	21	40	60

	フォーム	フォーム
文研	88	10
雑誌	100	0

(v)

	ヴァイオリン	バイオリン	ヴェテラン	ベテラン
文研	24	71	6	92
雑誌	89	11	18	82

(ti)

	エチケット	エチケット	チーム	チーム
文研	7	92	9	89
雑誌	0	100	8	92

	ペティコート	ペチコート
文研	43	54
雑誌	100	0

以上の結果を比較すると、まったく別種の調査だが、大体おなじような傾向をしめしている。(合計が100%にならないものがあるのは、その他の結果もあるためである。)ただし、「ヴァイオリン～バイオリン」のように、逆の結果になったものもある。